

出題分析			
試験時間	120分	配点	120点
		大問数	5題
分量（昨年比較）	[減少] 同程度 増加	難易度変化（昨年比較）	[易化] [同程度] 難化
【概評】 全5題の問題構成に大きな変化はなかった。第5問の総合読解問題は設問形式にやや変化があったが難易度としては昨年と同程度であった。その他、第1問(A)は昨年と比べてまとめやすくなり、第4問(A)は求められる文脈理解が少なくなったことで昨年よりもやや易化したが、全体的には標準的な難易度の出題が多く、昨年と同程度の難易度と考えられる。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	(A) 要約 「科学の発展と死の定義の変容」	(A) 例年通りの日本語による要約問題。本文の趣旨の理解は比較的容易だが、どこまで解答に盛り込むべきかの選択は迷うところもあるだろう。	(A) 標準
	(B) 英文補充 「人間特有の言語能力について」	(B) 例年通り、(ア)が一文の英文を空所に補充する問題、(イ)が語句整序問題。英文量は昨年より5行程度減った。(ア)におけるダミーの選択肢の数は昨年と変わらず1つだった。	(B) 標準
2	(A) 自由英作文 (60～80語) 「意見を言わないということは同意することを意味する」	(A) 昨年は、2つの提示されたテーマから1つを選んで解答する形式だったが、今年は1つのテーマに答える形式に戻った。一見すると身近なテーマで取り組みやすそうに見えるが、制限語数内で主張を整理し、簡潔にまとめるのはやや難しい。	(A) 標準
	(B) 和文英訳	(B) 昨年と同様に、数行の日本語を英訳する問題が出題された。目立って訳しにくい日本語表現や難解な文構造はなかったが、下線部の前半の主語を正しく把握して訳すことが求められる。	(B) 標準

3	<p>リスニング</p> <p>(A) モノローグ 「オオカバマダラの長距離移動」</p> <p>(B) 対話文 「奥深い蝶の世界」</p> <p>(C) モノローグ 「都市の植生」</p>	<p>5 択の選択問題が各セクション 5 問ずつ出題されている。昨年と同様、(A)と(C)がモノローグ、(B)が対話文という構成であった。(A)はやや専門的な内容である上、細部まで聞き取らなければ解答できない設問もあり、難度は高い。(B)は(A)に比べると内容を理解しやすいが、(12)のようにわかりにくい設問も含まれている。(C)は標準的な難易度だが、「正しい／誤っているものはどれか」という問いが多いため、あらかじめ設問に目を通してヒントを得にくい点は厄介である。</p>	<p>(A)やや難</p> <p>(B)標準</p> <p>(C)標準</p>
4	<p>(A) 誤箇所指摘 「ゲームとルールについて」</p> <p>(B) 英文和訳 「行間を読むということ」</p>	<p>(A) 昨年と同様、長文中の誤箇所を指摘する問題。近年は文脈からの判断が必要な設問も含まれていることが多かったが、今年はほぼ文法・語法の知識を問うものだった。</p> <p>(B) 3 箇所の下線部を和訳する問題。分量は昨年と同程度であった。難解な単語こそ多くないものの、訳出が難しい表現が各所に含まれていた。</p>	<p>(A)標準</p> <p>(B)標準</p>
5	<p>長文読解 「ラマダーンについてのあるムスリムの思い」</p>	<p>記述式と記号式の設問で構成される読解総合問題である。記号式の設問は 1 語の空所補充問題を中心とする形式が定番となっていたが、今年は下線を引かれた表現の意味に近いものを選ぶ問題中心に変化した。また語整序問題もなくなった。全体として英文は読みやすく、記号問題、記述問題ともに標準的な難易度である。</p>	<p>標準</p>

合格のための学習法

英語／日本語の表現力、長文読解力、リスニングと、言語に関わる幅広い能力が問われている。得点に差が付くのは記述力である。要約にせよ英作文にせよ、一定量の字数・語数を書くことが要求されるので、どのような出題形式になっても対応できるように、英語／日本語の表現力の基礎をしっかりと構築することが重要である。そのためには、添削指導を受けつつ、練習を積む必要がある。